

# 令和7年度 学校関係者評価委員会（まとめ）

令和8年3月 19日  
学校法人緑が丘学園 京王幼稚園

## 令和7年度 本年度重点的に取り組む目標・計画

子ども達にとって安心できる場所づくりを考える

～子ども達が自己発揮しながら園生活を過ごすために～

### ○評価項目の達成及び取り組み状況

評価について A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった  
D…成果がなかった

※学校関係者評価委員アンケート、園内研修の反省をもとに評価しました。

	評価項目	評価	内 容
1	安心安全な環境づくり	C	<p>【学校関係者評価委員会、監査など第三者の助言より】 保育や園内環境をみてもらうことで、改善点について職員間で共有し、改善につなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・備品の管理、子どもたちへの提供の仕方の見直し、危険な扱い方はないか。</li> <li>・総合フードサービス、園打ち合わせを通して改善。</li> <li>・毎日の保育室、園庭遊具安全点検→ 報告の徹底。</li> </ul> <p>【安心、安全な環境が整ってこそ、保育が生きる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開保育を通して保育の内容についての感想をもとに、細かい配慮や想定など計画性をもつ必要性を職員間で再確認した。</li> <li>・週案、月案など保育計画 学年→主幹→園長 内容確認と指導</li> <li>・不適切保育 お互いを見合う、話ができる環境</li> </ul> <p>安心安全な環境作りは、子どもに対してだけではなく、良い保育を行うにあたり保育者にとっても当てはまるものである。</p> <p>【保護者にとって安心とは】 事故やケガだけではなく、子どもが園でどのような生活をしているのか知ること、園がどのような思いで保育をしているのか知ることでも安心につながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスだよりの紙面づくりの工夫 →これからも改善していく。</li> </ul>
2	保育者間の連携	A	<p>「連携は大切」という職員の共通の思いであることを理解した上で、現時点の、課題を園内研修、学年会議の中で話し合いを重ねた。</p> <p>【課題や気づき】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に勤務時間が違う保育者間では、話し合いの時間を取るのが難しい→時間の上手な活用</li> <li>・学年会議や日々の空き時間を使って、担任とフリー保育者の話し合いの時間を作っている。内容によっては、実際子ども達（関わり方）の姿を見ながら共有する大切さも感じる。保育者がある場面での共有したいこともあるので、言葉の方が伝わりやすい。</li> <li>・メモにして、みんなで目を通し共有することも試みたが、目を通すことに時間が必要であったり、解釈の相違があったりなど、難しいと感じることも。</li> <li>・保育者により出勤時間も差がある。当日の予定確認や園児の様子を伝える工夫 として →複数担任の場合、担任間では前日のうちに予定を話し合い、その日のリーダーが伝えることにする。</li> <li>・延長保育の担当としては、日中の園児の様子も知りたい。その伝達方法として → 「伝達ファイル」を作成</li> </ul>

			<p>◎これらの課題に気づき、意識を高めていけるよう研修を重ねていく。</p> <p>子ども一人一人のみとりへ 安全な保育環境 不適切保育防止</p>	<p>子どもたちにとって 良い保育環境へとつながる 項目1, 3とつながる</p>
3	安全管理	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練を通して 毎月の実際の訓練と振り返り 避難の前に、放送で指示を聞いて理解したり、先生の指示を聞いて行動する。→日頃から、「人の話を聞く」大切さを子ども達に伝えている。</li> <li>引き渡し訓練（保護者連携） 昨年までは、参観や、降園時を使ったお迎えの流れに特化した方法から、今回は配信でお迎え要請をし、子どもを引き取る場面までを行った。</li> <li>交通安全教育 ゆり組が新潟県警より「ちびっこ交通安全みまもり隊」に任命されたことから、様々な交通安全の取り組みを経験することができた。またその経験を、ばら組やすみれ組にも伝えることで、より交通安全の大切さを知らせる機会を与えることができた。</li> </ul>	

#### 4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>保育者は、子どもの安心安全な環境の下で常にけがや事故につながらないよう何が危険か予測をたて、防止策を講じ保育環境を整えているのだが、予測の立て方はそれぞれである。他の保育者の捉え方や取り組みを知ることができたら、保育者自身のさらなる意識の向上につながるのではないか。一方「保育者間の連携」について、防災訓練についての立案や反省評価など、年間を通して積極的に話し合った。それは、職員間の意識を高められた。以上を踏まえて総合的に評価した。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

#### 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	保育内容の見直し	子どもの発達に即した保育内容であるか。 保護者への発信と共有
2	危機管理への理解	危機管理に関するマニュアルの理解を深める。
3	保育者の連携	令和8年度は…連携の仕方について話し合い

今年度も、委員会の皆様より率直な感想をいただきながらたくさん話し合いました。公開保育を通して、保育内容や保育者の言葉かけや配慮についての率直な感想をいただき、改めて考えさせられたり、新たな発見につながるという場面もありました。このように委員会でのやりとりは、保育の質の向上に向けて一歩ずつ前に進んでいるのだと感じています。と同時に、この委員会の目的や意義について、もっとわかりやすくお伝えしていかなければならないとも感じています。令和8年度の学校関係者評価委員会開催につきましては、4月に入りましたら改めてお知らせいたします。保護者の皆様のご参加をお願い申し上げます。